



日本共産党区議会議員 こんにちは 伊藤和彦です

自宅・足立区花畑6-7-23
足立区役所・電話3880-5111(内線4650~4654)
日本共産党議員団・直通・3880-5770~1
<http://www5.familie.ne.jp/~k-itou/index.html>



本会議で質問する伊藤和彦区議・12月5

第4回定例区議会

地球温暖化防止対策に 逆行する廃プラ・サーマル 対策示し区長に迫る

太陽エネルギーや使用済み天ぷら油など活用 足立の特性にあった新エネルギー導入提案

日本共産党の一般質問(伊藤和彦議員)は、関心の高い環境問題を取り上げました。地球温暖化対策や二酸化炭素の排出を少なくするため、太陽光エネルギーや使用済み天ぷら油の活用、トレーの回収など積極的に提案。また都市再生機構の賃貸住宅問題等まちづくりで区の姿勢をただしました。

区は、温室効果ガスの削減計画を年度内に策定し、素案を環境審議会にはかりパブリックコメントをする予定です。

温室効果ガスの「数値目標」の設置を2012年までに1990年比10%、ごみマインナス8%—とされていますが、足立区は工場や事務所が減ったため産業部門の基準年比でマイナス5・9%。現時点で京都議定書の目標はほぼ達成されています。



ないか。また、削減計画を推進する母体として関係する企業、行政、住民による「地球温暖化対策協議会」を設けるべきと質問しました。

環境部長は、温室効果ガス等の削減数値は、今後5年間でいう限られた期間での設定なので、高い目標と答弁しましたが、中間見直しで上方修正もあり得ることを認めました。地球温暖化対策地域協議会については、仮称「足立区地球温暖化対策区民会議」を設置し、計画の推進機能を果たすと答弁しました。
サーマルリサイクルは、

廃プラスチックを可燃ごみとして収集し焼却するものですが、「混ぜればごみ」「分ければ資源」を合言葉に区民と共にすすめてきたプラスチックごみを減らす努力を投げ捨て、再利用、再資源化の取り組みや、子どもたちの環境教育の取り組みを無にし、温暖化防止からも逆行するものです。

トレーは、製造・販売の事業者責任としてスーパー等の店頭回収をしていると答弁しました。
太陽光エネルギーの活用については、住宅への助成は行っているが公共施設については進んでいません。学校や公共施設の更新に合わせて計画的に太陽光発電や太陽熱利用を進めべきです。また、使用済み天ぷら油も大切な資源、適切な処理をすれば枯渇エネルギーを使わないクリーンなバイオディーゼル燃料に生まれ変わります。家庭の使い済み天ぷら油を拠点回収し、廃油を精製したバイオ軽油を活用する自治体が増えていることを取り上げ、区としても廃天ぷら油の拠点回収、バイオ軽油へのリサイクルを行い、エコカーとして区の広報車等に広げるべきと質問しました。

ます。東京都も千代田区もマイナス25%。他区と比較すると足立区の目標数値は低いのです。削減計画を推進する母体として関係する企業、行政、住民による「地球温暖化対策協議会」を設けるべきと質問しました。

環境部長は、温室効果ガス等の削減数値は、今後5年間でいう限られた期間での設定なので、高い目標と答弁しましたが、中間見直しで上方修正もあり得ることを認めました。地球温暖化対策地域協議会については、仮称「足立区地球温暖化対策区民会議」を設置し、計画の推進機能を果たすと答弁しました。

サーマルリサイクルは、



ご意見、ご要望をお寄せください

裏へつづく

都市整備機構（UR）は、住み続けられる、公共住宅の役割を

住民無視で旧公団の削減、売却整備方針



花畑団地 花畑5丁目

西新井アリオの出店に伴い、車両の増加で大気汚染の悪化が広がっています。住民の不安に配慮する対策を講じるべきと質問しました。区は今後、開店後の調査を行い、開店前の状況と比較し影響を正確に示すこと、出た数値は公表し、結果によっては関係機関に改善の申し入れを行うと答弁しました。

花畑団地の建て替え問題とまちづくり

日本共産党 伊藤和彦より

都市再生機構（UR）は、全国（77万戸）の賃貸住宅の長期的な整備方針について検討中ですが、UR住宅の20万戸の削減計画を住民不在の密室で作成していたことが報道され、居住者の不安と怒りが高まっています。06年「削減・売却案」では、全面建て替え団地約8万戸から約3万1000戸に大幅に減少し、東京では花畑団地2725戸などが建て替え対象から外されるとしています。URの内容は一住宅削減・売却、民営化」が組み込まれています。

10月区議会は「独立行政法人都市再生機構住宅居住者の居住の安定に関する意見書」が全会一致で採択されました。

趣旨を生かし口本共産党は、URの居住者の高齢化や収入低下の実態に配慮して、現行の家賃制度及び改定ルールを再検討するよう足立区はURと協議すべきと質問。区は「家賃制度及び改定ルールについては、協議する立場ではない」という冷たい答弁でした。

花畑団地を改修し若年層が入りやすい団地に

花畑団地は、これまで「建替え対象団地」と言われ建設当時のまま老朽化してきました。居住者を増や

す対策や、リフォーム住宅修繕等を行い若年層など入りやすい公団として再募集を行うようにすること。最近、同団地の耐震診断の結果、早急に対策が必要な号棟が示され、区としてURに解決を図るよう申し入れをするなど、また周辺の商店が減少するなど日常生活に支障があるので早急に地域活性化を図るよう改善策を講じるべきと質問しました。

区は「花畑団地が現在抱える諸課題の解決、及びまちづくりの観点から将来必要となる機能の整備については、新たに設けた「花畑団地整備計画に係わる区・都市機構協議会」において、質問の主旨を踏まえて情報・意見交換を行い、より良い解決策、及び整備の方策を都市機構に求めていく」と答弁。

花畑団地以外の区内のUR

竹ノ塚第一、第二、第三、栗原、江北六丁目の各団地は「事業価値の向上がみこまれる団地」と位置付けて、一部建替え団地としています。区は当該団地居住者の住みつけたいという願いを応援し担保するためにURと協議するとともに、必要な情報提供をすべきと質問しました。

URの整備方針について、区は「当面、年内に予定されている国の

整備合理化計画策定、及び団地別の整備方針を注視する。また、居住者の居住の安定については十分に情報提供するようにURに伝える」と答弁しました。

竹ノ塚駅付近鉄道高架化に併せたまちづくりについて

区は竹ノ塚駅付近鉄道高架化の実現にあわせたまちづくりを進めていますが、鉄道の高架化事業着手が遅れることのないようにURがらみの開発にしないこと、また竹ノ塚第三団地の居住者を追い出すような計画はすべきではなく住民の要望をよく聞くべきと質問しました。

区は「鉄道高架化のスケジュールに影響を及ぼすようなURを絡めた再開発事業を行う考えはないが調整を図り、平成23年度事業着手を目指し取り組んでいく」現在、竹ノ塚第三団地の代表者も参加したまちづくり連絡会で、まちづくり構想案の検討を行っており、団地居住者を一方的に追い出しを迫るようなまちづくり計画を策定する考えはないと答弁しました。また連絡会対象区域外からの住民から寄せられた意見は、まちづくり計画に生かしていきたいと答弁しました。